

カツオ餌料の採捕技術指導

担当 技手 上地 清 吉
新垣 盛 敬

はしがき

宮古地区では従来追込漁法によつて採餌してゐるが、需要量を満たしきれない現状であるので、漁具漁法の改善によつて生産量を増大し、不足緩和に役立てるため、今回は集魚灯で集魚し、誘受網で採餌する技術指導を行つた。その概要は次の通りである。

I、指導概要

1. 期間 1963年8月23日～28日 6日間

2. 地区及び対象

- a、宮古地区(県編別紙国産の通り)
- b、カツオ船乗組員及び其の関係者(研修者名簿の通り)

3. 使用船舶及び乗組員

- a、因南丸
- b、舟楫一航士(船長代理)外13名及実習生

実習生 { 沖水高生5名、宮水高生6名
専攻科生3名 }

4. 指導要項 集魚灯利用により餌魚の採捕技術指導

5. 使用灯及び漁具

100V50Hz水上灯3個及び誘受網一式

6. 指導方法

- イ 予定の魚場に至り日没から翌未明まで水上集魚灯を張出棒の先に装置して(右舷、左舷側共各2個砲と船首側に1個(誘導用として)点じ、餌魚の種類、集魚状況等を見学させながら集魚灯の操作効果について説明指導するようにした。
- ロ、餌魚が集つたら誘受網で採捕し、実況を見学させ又、乗船法や操船法等を説明指導した。

7. 行動経過

8月23日 泊港出港 宮古へ向う

8月24日 平良着

宮古地方庁に於て日程打合せ、伊良部漁協組合員を対象に伊良部島北側通称「白鳥」地先に於て採捕技術指導。

8月25日 池間及び伊良部両漁協組合員を対象に佐良浜の東北東側約2哩の宮古本島との中間地点で集魚し、採捕技術を指導した。

8月26日 伊良部漁協員を対象に「白鳥」地先で集魚し採捕技術指導

8月27日 技術指導を終り宮古地方庁に於て指導経過報告後平良港発停途につく。

8月28日 泊港帰港

II、指導状況

(1) 集魚状況及び採捕状況

第1回目(8月25日)

24日の19時～20時点灯したところ、最初に「アミ」が集まり、次に「バカジャコ」の小さいつや「トラオロイワシ」、「ガツン」等も集まり更に25日の未明3時頃から「シイラー」「ムロアジ」等も集つてきて約300kgと集つた。そこで4時20分網入れをなし、5時15分に漁網を終つた。

これらの操船、集魚灯操作網の操業等を通じて乗受網による採捕技術を指導した。なお、採捕網魚の「シイラー」「バカフヤコ」「トウゴロイワシ」等120kg位は技術研修のため来航し、本船尾に繋留中の伊良部藩カツオ船隆祥丸に活力試験を依頼して与えた。(本船に活魚給なきたため)。因て該船魚は活力よく、これで産1,000尾以上の漁量があつたとの報告があつた。

第2回目(8月26日)

25日15k~50#点灯したが21k頃までは「アミ」が明集し、更に22k頃「ガツン」の群が出現して盛んに「アミ」を食り食う。同時刻頃から「シイラー」「トウゴロイワシ」「キビナゴ」等も集つてきた。
1時頃更に「ムロアジ」の大群(1,200kg位)も現れて灯火を遮断するようになつた。そこで網入れ準備をなし(4k~50#)網入れしたが網成り悪く採捕網魚は「シイラー」「トウゴロイワシ」「ガツン」「キビナゴ」等で約20kgであつた。以上の操作を見学させることによつて技術指導を行つた。なお網の裏側から「キビナゴ」の網目に大分刺していた。

第3回目(8月27日)

「シイラー」「トウゴロイワシ」「ガツン」「ムロアジ」等で集魚率高く約120kg集つたので5k~20#投網し5k~4) #網網した。
この過程を通じて採捕技術を指導した。
なお、採捕網魚は「シイラー」「トウゴロイワシ」「ガツン」等で12kg位であつた。
以上のように集魚灯の操作法や集魚状況を見学させ、又乗受網を操作して採捕する実況を通じて、説明し採捕技術を指導した。

(2) 当時の気象その他の状況

年月日	漁場位置	漁獲時刻	天候	風向	風力	気圧	気温 (C)	水温 (C)	水深	備考
8.25	24°~31.9N 125°~10.5E	04-00	b.o	NE	5	1,005	29.0°	29.2°	40m	
26	24°~30.9N 125°~15.2E	06-00	b	E	2	1,004.5	29.0°	29.8°	22m	
26	24°~31.8N 125°~11.2E	20-00	b	E	2	1,005	30.5°	30.0°	27m	

(3) 技術研修に参加したものの

- a、カツオ漁船4隻(隆盛丸、照幸丸(平良船)隆祥丸、幸洋丸、重宝丸、宝得丸(伊良部藩))の乗組員
- b、其の他関係者(下記の通り)

研修回次	住 所	氏 名	備 考
第一回目	伊良部村前里原	原 河 朝 昌	漁 業
〃	〃	浜 川 健	〃
〃	〃	伊 波 成 一	教 員
〃	〃	前 泊 力	カツオ漁船主
〃	〃	仲 村 栗 良 賢	漁 業
〃	〃	上 里 守 盛	〃
〃	〃	仲 間 勇 榮	〃
〃	〃	上 里 義 雄	〃
〃	〃	浜 川 榮 吉	教 員
〃	〃	久 高 武	漁 業
〃	伊良部村池間浜	池 間 清 一	〃
〃	〃	奥 平 秀 雄	〃
〃	〃	奥 清 真 長	〃
〃	〃	奥 平 正	〃
第二回目	伊良部市池間島	浜 川 清 吉	〃
〃	〃	浜 川 徳 一	〃
〃	〃	佐 藤 山 金	〃
〃	伊良部村池間浜	下 地 純	伊良部村水産技術員
〃	〃	儀 保 正 吉	教 員
〃	〃	仲 宗 模 勇 吉	漁 業
〃	〃	仲 間 定 雄	〃
〃	〃	仲 原 藤 雄	〃
〃	伊良部村前里浜	久 高 義 雄	伊良部漁協専務
〃	〃	重 長 清 裕	漁 業
〃	〃	伊 波 成 一	教 員
〃	〃	浜 川 榮 吉	〃
〃	〃	仲 村 栗 良 賢	漁 業
〃	〃	仲 間 勇 榮	〃
〃	〃	池 間 俊 活	〃
〃	〃	前 泊 定 雄	〃
〃	〃	前 泊 力	カツオ漁船主
〃	〃	池 間 明 雄	漁 業
〃	〃	源 河 長 幸	〃
〃	〃	浜 川 力	〃
第三回目	伊良部村池間浜	儀 保 正 吉	教 員
〃	〃	武 富 進	カツオ漁船主
〃	〃	下 地 純	水産技術員
〃	伊良部村前里浜	久 高 義 雄	漁協専務
〃	〃	伊 波 成 一	教 員

研修回次	住 所	氏 名	備 考
第三回目	伊良部村の里番	渡 部 吉 郎	漁 業
"	"	伊 波 義 一	教 員
"	"	仲宗根 勇 栄	漁 業
"	"	久 高 正 康	"
		重久島 弘	"
		国 吉 孝 助	"
		川 上 武 雄	"
"	伊良部村他間番	伊 原 藤 雄	"

Ⅱ、指導効果と考察

カツオ釣獲量にとって餌料の多少は漁獲高の増減を左右すると言つても過言ではないであろう。ところで沖縄ではこれが毎年不足して深刻な問題となつている。

カツオ餌料は従来直込漁法で採捕しているが時間と労力に比して採捕量は少なく、彼等の餌魚の採捕も却々困難で非能率的な漁法である。

故に今後は能率的漁法の採用によつて採捕量の増加を図り餌料問題を解決すべきだと思ふ。

斯る見地から今回は火光利用による採捕法を実施し、餌料が火光に集まり、これを採捕する技術を漁受網を操作してその実況を見学させ、指導したことは関係者に多大の示唆と刺激を与え大きな効果があつたものと思ふ。

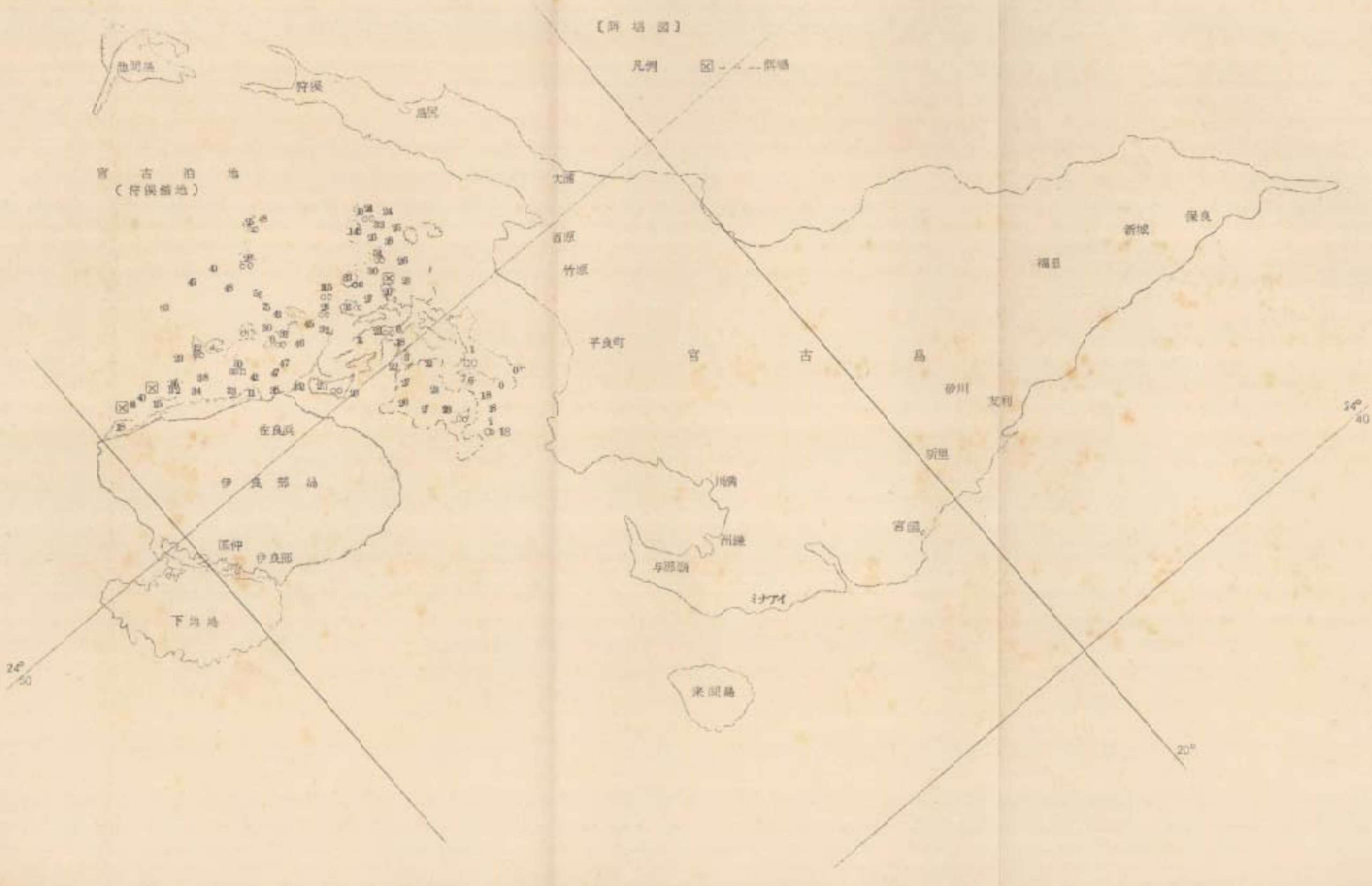
将来、本漁法の採用によつて餌料不足が解消されるばかりでなく、人的節減、漁獲拡大もなされ、漁獲高の増大と相俟つて新業の安定も期せられるものと思ふので更に機会を持つて漁法の指導普及につとめるべきだと思ふ。

【阿 越 圖】

凡例 圖 - - - 界線



圖 計 的 詳
(有 關 詳 誌)



20°
50

24°
40

20°